



法身本何名
子年久何一
如

南都一條院山樂坊官
尊朝法親王

寬永十六年
五十六歲

雄德山松花堂惺翁

花下忘歸園
美京樽前勳
醉是喜風

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

飛 龍 吟 之 子

子 孝 如 龍 也

如 月 如 日 若

此

如 龍 吟 之 子

子 孝 如 龍 也

位 細 沙 為

湖 落 曉

飛 龍 吟 之 子

子 孝 如 龍 也

字一ノに止る

月影を杖に安んず

花之く

花すれ

月踏落葎相

伴玉暮随花

鳥一時来

馬く羅ちふま

たを月

心かろて

空にれれ

静るるるる

私筆

背癖物

福年

紗羅富物

香
軍箱

かきく

かきく

花の文

かきく

うき

花

あふ

かきく

かきく

枕必雨洞

新秋地

相多風涼

かきく

輝く

あはれ

のひめ

あはれ

夜す

風流

静

及

海

三川と成る

了るにや

中

夫の乳

也

子

二 悔 岸

雪花は袖

白

一夜中

也

霜はあま

為 亦 無 二

祿 々 々 々 々

々 々 々 々

葉 々 々 々

々 々 々 々

時 々 々 々 々

猿 一 門

々 々 々 々 々

々 々 々 々 々

わびらに

ま—羅な—のび

た—のび—のび

あは

ま—のび—のび

若使榮部

ま—のび

若—のび

不—のび

晨明のさくら

さくらを
見る

心のあはれ

さくらを
とほろび

春籟曉興

曲丁志

春籟

心実

酒身之類
空燒酒
深海石鼓
夜迴山

のけしり
北山
あま

ふれむれ
むるれ
く
た
の
乃
子
お
し
あ
い

い
あ
い
人

ね
る
れ

え
あ
い
あ

あ
い
あ
あ

さうにまじふ

かりやう

秋の月

あつた

あつた

向晚篇以

生白露

終夜床底

見青

夫ふくくく

後より
志之候

のち此

一程さゆ

ゆきかき

三東若花時

海傍心

唐山雨夜

草菴中

山崎氏の

山崎

此の

山崎

山崎

山崎

長生殿

意表秋心

不老門

前日月遊

ふりつよふ

こけいよふ

あめた

きん

し

山市晴嵐

一竿酒旗斜陽意

数簇人家煙曉中

山路醉眠

歸去晚

太平一每日

不羨風

心。來由。心。

心。心。心。

心。心。心。

心。心。心。

心。心。心。

遠浦歸帆

鷺鳥青山一抹秋

漁平浪浪橋下流

歸棹漸入

道花老

長在夕陽

江上頭

呼き首座

大泉張

朴若西風

森一花巻

なみのうきをいかに

れ

泣くはなみそひ

花

よけききりり

のふ

遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮

殷之鐘聲訢晚風

此去上方

猶遠近

為言只在

此山中

くきりるきりる

送り

かぬのきりるきりる

人

くちりるきりる

平沙落雁

古字きりる

送り

きりるきりる

善正源作

御湯書

籍向科湯

利茶細

新あきねあきね

のこりしりしり

雲々

あきねあきね

あきねあきねあきね

洞庭秋月

西風易出

三

芳頃耀波流桂苑

漁舟不知

羈客恨

直吹寒秋

三

秋

秋
風
吹
落
葉
滿
空
飛

吹
落
葉
滿
空
飛

力
學
飛
世
家

拉
弓
一
雁
南
飛

滿
湘
夜
雨

先
自
思
江
易
易
新
魂

凍
雲
粘
雨
濕
蒼
苔

孤燈遙志

新篇意

紙白竹枝

添濃痕

石子よひ

かよ湖しりまは

よまのあは

かよ湖しりまは

新法に

馬

江天暮雪

西風吹雪
江天暮雪
江天暮雪

扁舟一葉
扁舟一葉

如夢

前灣伊苑

西靜樓

秋是少時

夢入

あゝの繁ふりねふ

おろもふふ

漢

うもほのまは

ゆりてと

右瀧本法帖原為名公墨寶下卷僕近購
得其版於市以為今時瀧本書道大行也
宜表而出為板既經年之久雖多殘缺示
諸識者不必瑕歿其為真蹟可以知也因
就善本加正存舊名曰瀧本墨寶帖特行
于世云己亥歲正月淺野弘薦識



安永八年己亥二月

1980
1779
201

京都書肆
東都書肆
浪華書肆

寺町五条上ル
中野 宗左衛門
日本橋通本町十軒店
山崎 金兵衛
高麗橋壹丁目
淺野 彌兵衛

